

透湿ルーフィング標準施工要領

1 施工上の留意事項

- (1) 原則として3寸勾配以上の屋根でご使用下さい。3寸未満の勾配屋根でご使用の場合は重ね部に防水処理などを施して下さい。
- (2) 屋根葺き材と透湿ルーフィング間で湿気排出が可能となる納まりとして下さい。
- (3) 粘着防水テープはアクリル系、ブチル系の屋外用防水テープを使用して下さい。ゴムアス系の粘着テープは使用しないで下さい。
- (4) 栈木の固定等で自動釘打ち機による、金属線で結束された釘(ワイヤネイル)は、釘に残るワイヤがシートを破きますので使用しないで下さい。
- (5) ステープルの打ち損じ(坐屈等)空打ちは、漏水の原因になるので、粘着防水テープで補修して下さい。
- (6) 野地板等表面の清掃を必ず行い、突起が無いことを確認して下さい。
- (7) 透湿ルーフィングを施工する際に、透湿ルーフィングに傷、破れ等がないかをご確認下さい。
- (8) ステープルは重ね部以外には打たないで下さい。
もし打った場合は必ず粘着防水テープを貼って覆い隠して下さい。
- (9) 火や高熱物を近づけないで下さい。
- (10) 強風下での施工は避けて下さい。
- (11) 屋根材の施工は透湿ルーフィング施工後速やかに施工して下さい。
- (12) 荒天が予想される場合はブルーシート等で養生して下さい。
- (13) 防菌・防蟻加工された栈木等は薬剤が十分に乾燥していることを確認して下さい。

2 施工方法(参考例)

- (1) 透湿ルーフィングは原則桁行き方向に横張りして下さい。
- (2) 透湿ルーフィングの重ね部は、長手方向200mm以上、流れ方向100mm以上とし、シワ、緩みのないよう張り上げます。長手方向の継ぎ目は接近しないように乱張りとし、長手方向の継ぎ目は粘着防水テープを張ります。(図1参照)もしくは下側にくる透湿防水シートの端部を100mm以上折り返し、上側にくるシートを200mm以上重ねて下さい。(図2参照)
- (3) ステープルはシートの重ね部に打って下さい。ステープルを打った部分は必ずシートを2重にするか、粘着テープを貼って下さい。ステープルはステンレス製を推奨します。ステープルの打ち込み間隔の目安は、約150mmとします。(図3参照)
- (4) 瓦栈木等の施工は、流し栈工法や溝が加工された栈木を使用し、栈木に雨水等が滞留しないようにして下さい。
- (5) 棟部(図4,5参照)
大棟部においては、300mm以上づつ両側折掛けとし、さらに透湿ルーフィング(1,000mm幅)を棟頂部から左右へ折掛けるように増し張りする。隅棟部においても同様に増し張りして下さい。
- (6) 谷部(図6参照)
谷底から左右へ透湿ルーフィング(1,000mm幅)を先張りし、その上から透湿ルーフィングを左右に重ね合わせながら、谷底より250mm以上伸ばし施工して下さい。
- (7) 壁取り合い部(図7,図8参照)
シートを250mm以上立ち上げて下さい。
- (8) 軒先部
①軒天水切金物の上に、透湿ルーフィングを重ね、屋外用防水テープで密着させます。(図9参照)
②鼻栈の施工は、流し栈工法や溝が加工された栈木を使用し、栈木に雨水が滞留しないようにして下さい(図10参照)
- (9) けらば部(図11参照)
けらば登り淀まで透湿防水シートをかぶせ、端部を防水処理して下さい。
- (10) ピンホールが出来るおそれがある箇所(出隅、入隅など)は、粘着防水テープ等で補強処理をします。

3 シートの補修

穴傷や破れ等の大きさに応じて、粘着防水テープを使用したり、シート増し張りするなど、シート損傷箇所から雨水が入らないように補修して下さい。

施工図(建築仕様によって異なる為、参考例となります。)

